

あいち銀行がラクスとタッグを組み新たに法人決済プラットフォームサービス

「Arch Bridge」提供開始

両社の強みを生かし東海エリアの企業の課題解消につなげる



東海エリアの企業でも人手不足は深刻で、業種や企業ごとに異なる複雑な業務事情が障壁でもあり、7～8割の企業がデジタル化を未着手のままである。しかし、経営者の4割が業務のデジタル活用を考えている。あいち銀行は10月から法人決済プラットフォーム「Arch Bridge」を提供開始する。請求書受領から決済管理、支払いをワンストップで行う新サービスで、地元の事情を知り尽くし絶大な信頼を得る「あいち銀行」が、経費精算システム「楽楽精算」をはじめとする業務効率化を支援するクラウドサービスを提供し圧倒的な実績とノウハウを持つ「ラクス」とパートナーとなりスタートさせるものだ。

一地元企業の現状、地元経営者様から寄せられる『人手不足』や『業務負担』に関する現状を、あいち銀行様とラクス様にお伺いします。

鈴木頭取 あいち銀行では、預金や貸出に関するサービスの提供だけでなく、お客様の経営課題の解決を支援するため、多くの経営者の悩みを直に聞いています。「経理のデジタル活用は、直近の課題」としながらも、各社で異なるシステム事情に、社内の高齢化も重なり、「どこから手を付けたらよいのかわからない」状態でした。当行が Arch Bridge を通じて各社に寄り添ったデジタル化を支援することで、コスト削減や人手不足の解消だけでなく、経営の透明化につなげていけると考えています。

吉岡上級執行役員 経理をはじめとするバックオフィス（※1）業務は、特定の担当者に属人化しやすい傾向があります。特に中小企業では、手入力や転記作業、目視チェックといったアナログ作業が、現場の努力により回っているように見えるため、平時は課題が顕在化せず、効率化の余地も見落とされがちです。しかし、急な休職や世代交代で

業務が一気に停まるリスクもあり、デジタル活用で業務を標準化・自動化して生産性を高めることが、限られた人員で安定経営を続ける鍵となります。

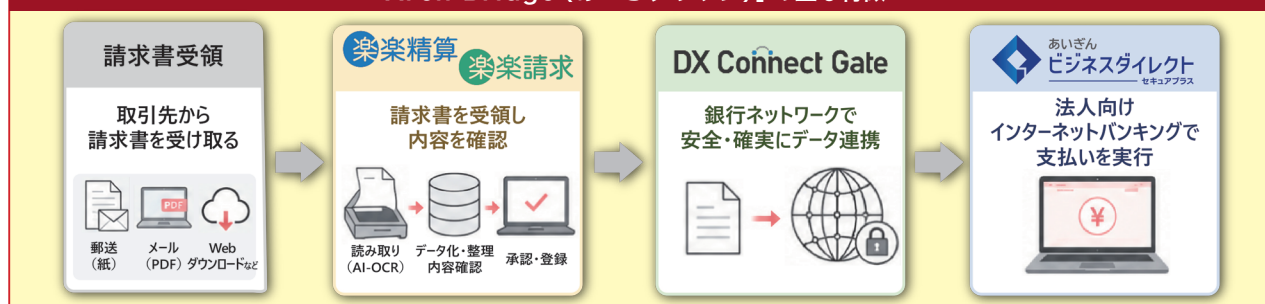
一あいち銀行様は、法人決済プラットフォーム～経理DXソリューション「Arch Bridge」を展開、あいちフィナンシャルグループ様は銀行業を超えたトータルサポートグループを掲げて、顧客企業向け推進に取り組みます。その理由は？

鈴木頭取 Arch Bridge は、当行が地域における顧客DX支援のリーディングバンクとなるための戦略的サービスです。お客様のニーズに応え、当行が主体となって地域企業のDX（※2）を支援し、あいちフィナンシャルグループが金融と非金融を融合したトータルサポートを提供していきます。これは、お客様との関係性をさらに強化し、共に地域経済の発展に貢献することにもつながるのです。

（※1）バックオフィス＝経理や総務など、社内から本業を支える事務業務

（※2）DX＝デジタルトランスフォーメーションの略

～「Arch Bridge（あーちブリッジ）」の主な特徴～



―請求書DXサービス分野で提携するラクス様の「パートナーとしての想い」をお聞かせください。

吉岡上級執行役員 あいち銀行様のマルチベンダー構想（1社1社の課題や状況に合わせた最適な選択肢を提供する）に強く共感したことが、パートナーとなる決め手になりました。当社も「常に1社1社に寄り添い、各社に合わせた提案を通じて、お悩みの解消と持続的な成長を支援する姿勢」を最優先に考えているからです。

一般的には「業務をシステム側に合わせる」ことが求められがちですが、当社では「システムがお客様の運用に合わせる」アプローチを徹底しています。

今後は、「地域に根差したあいち銀行」をパートナーに、「デジタル化への一步」を安心して踏み出せる環境を作っていきます。地域企業が、自社の運用を諦めることなくデジタル化を進める後押しができると考えています。

―数ある請求書DXサービスの中から、あいち銀行様が「楽楽クラウド」を提供するラクス様を重要なパートナーの一社に選ばれた理由は？

鈴木頭取 圧倒的な導入実績と豊富なノウハウ、地域に根差したサポート体制です。ラクス様は早くから地方展開を行い、2014年には名古屋に拠点を構えています。またラクス様の持つ「SaaS（※3）プロダクトと、対面による営業、導入支援の強み」と、当行の「Arch Bridge を通じた金融機能との連携、長年のお客様との信頼性」を融合すれば、一貫したサポートができると確信しました。

中小企業のデジタル化を推進する人材が不足する東海エリアで、当行はラクス様を「互いの非得意分野をカバーしあえるパートナー」だと考えています。ラクス様の社員に当行へ出向いただき、密に連携をはかり、「Arch Bridge」の更なる進化に努めています。（他業種から銀行への出向は、銀行業界ではレアケースである。）

―ラクス様が愛知県の多くの中小企業に選ばれている理由は？

吉岡上級執行役員 強力なサポート体制と「対面相談」の安心感です。愛知・東海の地に10年以上根を張り、導入検討段階から名古屋営業所の担当者が対面で直接相談に乗ってきました。現場の困りごとや現行運用を、膝を突き合わせて確認できることが大きな信頼・安心感につながっています。全国・多様な業種で培ったバックオフィス

（※3）SaaS＝インターネット経由で利用するソフトウェアサービス

改善の豊富なノウハウで、個別の課題に最適な解決策をご提案します。

また、定着まで伴走する手厚いサポート体制（2カ月間、無償の専任サポート）により、過去にシステム導入で失敗経験のある企業や、導入に不安がある企業からも「社内に確実に定着させられるサポート力」が高く評価されています。画面設計もわかりやすく、パソコン操作に不慣れな方でも使えると好評です。

―東海エリアの基幹産業である製造業における「Arch Bridge」の導入効果やメリットは？

鈴木頭取 多くの製造業は、多様な仕入れ先、複雑な原価管理、複数部門にわたる承認プロセスなど企業独自の複雑な管理フローをかかえています。そのため「デジタル化が難しい」と思われがちですが、こうした企業にこそ効果を発揮します。請求書の一元管理と承認・支払いのデジタル化により、作業時間とコストを削減し、内部統制の強化にもつながります。

吉岡上級執行役員 「楽楽精算」「楽楽請求」はカスタマイズ性が高く、運用を変えずに始められる点が大きなメリットです。プロジェクト・案件ごとの原価按分や予実管理、複雑な承認フローをシステム上で再現できるため、業務を無理にシステムに合わせることなく、独自の管理手法を活かしたまま効率化が実現します。

―両社のパートナーシップを通じて、今後、地元のバックオフィスDXをどう支え、地域貢献につなげていきたいとお考えですか？

鈴木頭取 将来的には「Arch Bridge」を、単なる経理DXツールに留まらず、地域企業の経営全体を支えるビジネスプラットフォームへと進化させていきたいと考えています。「Arch Bridge」を起点に、より付加価値の高いコンサルティングサービスを提供することで、地元企業の持続的な成長を強力に支援し、地域経済の発展への貢献を目指します。

吉岡上級執行役員 あいち銀行様と密に連携し、「あいち銀行に相談すれば、自社に最適なDXが実現できる」という世界観を共に作っていききたいと考えています。地元企業のリアルな運用に徹底的に寄り添い、業務環境の変化にも柔軟に対応できるサービスとして進化し続けることで、お客様が本業（コア業務）に集中できる環境を作っていきます。



鈴木 武裕（すずき たけひろ） 1965年4月愛知県生まれ
株式会社あいち銀行 代表取締役頭取執行役員
株式会社あいちフィナンシャルグループ 取締役常務執行役員
1988年 中央相互銀行入行。名古屋駅前支店長ほかを歴任、2022年 愛知銀行 上級執行役員営業企画部長、2023年愛知銀行 取締役営業本部長、2025年あいち銀行 代表取締役頭取執行役員（現職）

吉岡 耕児（よしおか こうじ） 1980年11月 福岡県生まれ
株式会社ラクス 上級執行役員 楽楽クラウドバックオフィス事業統括本部 統括本部長
食品業界グローバル最大手企業で営業担当。SCMそしてブランドマーケティングなどに従事。スタートアップ企業を立ち上げ事業戦略全般を担当した後、大手外食チェーンに移り事業責任者として従事。2020年に株式会社ラクスに参画、2025年4月より上級執行役員 楽楽クラウドバックオフィス事業統括本部長に就任。

